

BCG 接種



平成 25(2013)年 4 月より、定期の BCG 接種は、「生後 1 歳に達するまで」に行うことになりました。

接種方法

上腕外側の接種を受ける部分を消毒したあと、スポイドを使って、溶解液で溶かしたワクチンをたらしませます。次に腕にたらしめた液をスタンプでよく伸ばし、なじませたらスタンプを上下に 2 回押します。このときワクチンが体内に入る様に強めにしっかり押されるので、赤ちゃんをしっかり抱いていて下さい。スタンプには 9 本の針がついているので合計 18 個の針の穴がついているはずです。

★そのまま自然乾燥★

接種後は、ワクチンが確実につくように、自然に乾燥させます。乾く前に触ったりするのは NG。乾いたのを確認した後、服を着ます。



正常な接種後の経過

接種後 10 日～4 週の間、接種部に発赤、固くなる、腫脹、かさぶた形成などの局所反応が現れ、特に反応が強い場合は膿を作ることもあります。痂皮を形成して 1～3 ヶ月で消えていきます。

正常な経過の場合

<接種後 1 週間頃>



<接種後 1 ヶ月頃>



<接種後 3 ヶ月頃>



★標準的な接種が実施された場合、針痕は少なくとも 12～15 個以上残っていることが目安になります。

～このようなときは受診を～



<コッホ現象>

結核に感染したことがある人が、BCG接種を受けた後、10日以内に接種した腕の場所が赤く腫れたりうみをもつことがあります(通常の経過よりも早く赤くなったりします)。これをコッホ現象と呼びます。



<接種後3日目頃>
腕が広く発赤し、接種部位の腫脹と針痕部位の化膿が見られる。



<接種後2週間頃>
発赤は消え、化膿していた針痕部位ははがれ落ちてくる。

★下記のような場合も一度病院を受診してください。

- ・ 3ヶ月以上経過しても乾かない、いったん癒痕化(ケロイド)したものが湿潤し潰瘍化する。
- ・ 腋窩リンパ節腫大(脇の下のコリコリ)
- ・ 鎖骨・頸部(首)のリンパ節腫大。・・・等。

★他の予防接種までは、1か月あける必要があります。

